

九州大学附属図書館付設教材開発センターだより

ICER Newsletter

福岡市博物館にて鴻臚館学習教材を展示



教材開発センターでは、福岡市経済観光文化局文化財部や特定非営利活動法人福岡城市民の会の方々とともに、「福岡城・鴻臚館を活かした観光都市戦略事業」の一環で、鴻臚館の歴史を学習できるコンテンツを開発しています。これまでに、本プロジェクトを通じて、平安時代の鴻臚館の様子をヴァーチャルリアリティで体感できる教材（VR教材）やウェブブラウザ上で、かつての鴻臚館の様子が描かれたイラストや鴻臚館の3Dモデルを閲覧しながら鴻臚館の内容を学習できる教材（ウェブ教材）などを開発してきました。VR教材では、九州大学基幹教育の講義や九州造形短期大学の講義などでも利用され、学生と共にVR教材を開発してもらおうと共に、学生と鴻臚館を訪れて自分たちで開発したVR教材を体験する講義などを開催してきました。ウェブ教材では、室川康男氏によるかつての鴻臚館の様子を描いたイラストがアニメーションで表現されています。これらのアニメーションなどを見ながら、当時の鴻臚館の様子を理解していくことができます。これらの

▼ 鴻臚館 3DCG 再現モデル



▲ VR教材を体験している様子

成果が、福岡市博物館の「発見 100 年記念特別展 よみがえれ！鴻臚館－行き交う人々と唐物－」にて、9月7日（木）～10月22日（日）まで展示されることになりました。是非、福岡市博物館にきて、コンテンツを体験して頂けると幸いです。

【金子 晃介 准教授（協力教員）】

「発見 100 年記念特別展 よみがえれ！鴻臚館－行き交う人々と唐物－」

展示に関する詳細は、福岡市博物館ウェブサイトをご覧ください。

▶ <http://museum.city.fukuoka.jp/sp/exhibition/yokoku2.html>

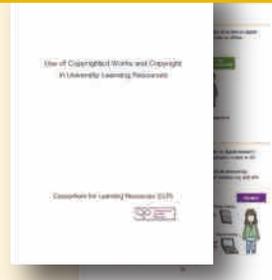
英語版「大学学習資源における著作物の活用と著作権」を作成・公開しました

九州大学加盟の大学学習資源コンソーシアム（Consortium for Learning Resources: CLR）の作業部会の一つであり、本学が中心となって活動している活用ガイドラインWGにおいて、ガイドライン「大学学習資源における著作物の活用と著作権」の英語版「Use of Copyrighted Works and Copyright in University Learning Resources」を作成し、公開しました。本WGでは、教材作成者の教育・学習活動を支援するため、学習資源における著作物の自由な流通環境の構築に向けて、これからも取り組んで参ります。

ガイドラインはこちら

▶ http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/en/copyright_info

NEW! 英語版



【河野 由起子（テクニカルスタッフ）】

「先生の森 動画版」撮影秘話 ～野外撮影編～

教材開発センターでは、本学の代表的な先生方の研究紹介ビデオ「先生の森 動画版」を制作・配信しています。撮影は、教材開発センター所有のスタジオで行うことが多いのですが、先生の研究室を取材したり、屋外で撮影を行ったりすることもあります。

先日は、佐竹暁子先生(理学研究院)のビデオ制作にあたり、伊都キャンパス内にある生物多様性ゾーンで撮影を行いました。屋外での撮影はスタジオとは異なり、お天気や周囲

の音の状況など気を配ることが沢山ありますが、開放感、臨場感のある映像が撮れるのが魅力です。今回は、豊かな自然に囲まれ、鳥のさえずりのなかでの撮影となりました。

完成したビデオは、「先生の森 森の映画館」にて公開予定ですので、どうぞご期待下さい!



【谷澤 亜里 助教】

先生の森 森の映画館はこちら

▶ <http://rvp.icer.kyushu-u.ac.jp/>

2D/3D 教材開発システムの紹介 ～ vol.5～

ハイスピードカメラ

ハイスピードカメラは、1秒間に数千枚の画像を撮影する能力をもつカメラです。教材開発センターのハイスピードカメラは、1,600×1,600画素の解像度の場合500枚/秒、VGA(640×480画素)の場合3,000枚/秒という高い撮影能力を持ちます。家庭用テレビのように1秒間に30枚の画像を表示できる装置で見ると、100秒かけて3,000枚の画像を見ることがになります。1秒という一瞬の出来事を100秒という長い時間で見ることがになります。これがスローモーション映像です。肉眼では視認できない高速な動きを伴う実世界の様々な事象を理解するのに役立ちます。是非、教材開発や研究等でご利用下さい。



【岡田 義広 教授(教材開発センター長)】

着任のご挨拶

平成29年7月より教材開発センターの助教に就任いたしました石偉(シイ ウェイ/SHI Wei)です。中国出身で、2007年から北海道大学大学院で情報可視化に関する勉強と研究を行っていました。修了後は北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターの博士研究員として、データ処理と可視化技術を用いて、感染症の空路経路による拡散ルートを分析するウェブアプリケーションを開発していました。



教材開発センター 助教 石偉

教材開発センターでは、ICTを活用して様々なインターアクティブな電子教材の開発と学生が使用した教材のログデータの収集と可視化分析を行い、学生の学習行為の分析、教材の改善と学生の学力向上に貢献していきたいと考えています。どうぞ、よろしくお願い致します。

～教材開発支援機材システムの貸し出しについて～

お問い合わせ、お申込みフォームはこちらから

▶ http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/lectcast_use_apply

- ① デジタル顕微鏡 ② 光学式モーションキャプチャー装置 ③ 3D スキャナー
- ④ 3D プリンター ⑤ ハイスピードカメラ ⑥ 視線追尾装置 ⑦ 講義収録配信システム